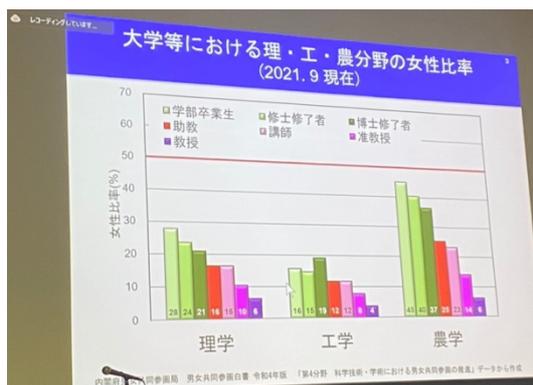


2022 年日本遺伝学会男女共同参画推進フォーラム 開催報告

2022 年 9 月 14 日に日本遺伝学会第 94 回大会（北海道大学）で「男女共同参画フォーラム：男も女も無意識のバイアスだらけ。あなたの何気ない認識、それでいいですか？」が開催されました。参加者は現地参加 42 名、オンライン参加 25 名でした。

岩崎博史・遺伝学会長の挨拶に続いて、一柳健司・男女共同参画推進委員長より今回の年会参加者に対するアンケート調査の結果の概略と委員会の活動についての説明がありました。前年度と比較すると、本年会における女性の参加者は増加しているものの、ポスドク（特に 30 代）の参加者が男女共に少ないことの報告がありました。ポスドクの参加者の傾向は前年度から引き続いており、その原因の分析が必要との認識を示しました。また、女性参加者は 29%である一方、ワークショップのオーガナイザーの女性比率は 9%と依然として低く、学会としてもセッションリーダーなどに女性を積極的に起用するなどのアクションが引き続き必要との認識を示しました。



続いて京都大学・複合原子力科学研究所・裏出令子特任教授による基調講演「男女共同参画を妨げる見えない壁—無意識のバイアス—を知る」が行われました。裏出先生からは、科学技術研究者 OECD 加盟国最低レベルである日本の現状の原因の分析と海外における科学技術業界への女性の進出を促した制度や意識の改革について説明していただきました。無意識のバイアスとは自分自身が気づいていない、ものの見方や捉え方の歪みや偏り」のことです。例

えば、性別や人種など、特定の属性を持つ人たちの平均的な特徴をその属性の全ての人に当てはめて考えたり、逆に本人もそのようなステレオタイプを立証してしまうことを恐れて普段の力が発揮できないということがあるそうです。「女性は男性よりも数学が苦手」ということを試験の前に先生が発言すると女子学生の数学の点数が下がったという実験結果が紹介されました。さらに、特定の属性の人を軽視してしまうマイクロアグレッションも問題になることが指摘されました。例えば、会議で女性が発言してもちゃんと取り合わないなどの態度を指します。一つ一つは些細なことだったとしても、それが積み重なって人格が形成されていくことを忘れてはならないでしょう。海外では、このような女性に対する無意識のバイアスを認知させるため、その存在を様々な実験により証明してきたとのこと。また、現在の学会の現場について、女性の幹事や評議員が 10%にも満たないところが大半であるということが紹介されました（遺伝学会では 25%を超えています）。講演後には参加者の皆様から、子育てをしながら研究者を続けることに対する不安、女子高校生の理系進学に対する外圧、学会ワークショップにおけるクオータ制の導入など、様々な意見を頂き、制度の改革や支援制度の充実・周知の必要性を改めて感じました。（文責・福田溪）